



輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind



6年生「修学旅行」。決して色褪せることのない思い出！

—Change（変革）,Challenge（挑戦）,Continue（継続）—

明日から6年生は修学旅行です。6年生の子供達にとっては、待ちに待った、非常に楽しい活動です。保護者の皆様にとっても、思い出がたくさんあるのではないのでしょうか、小野市は、ずっと昔から、それこそ私が小学校の時から「奈良・京都」でした。奈良では法隆寺、東大寺、春日大社等を、京都では宇治平等院、平安神宮、二条城、清水寺、慈照寺銀閣、鹿苑寺金閣等を回り、夜は新京極で買い物、家族へのお土産を買ったのを今でも覚えています。行先が少し変わったかもしれませんが、日本の古都を巡る修学旅行には変わりありません。子供達にとっては、社会で学習した、資料集やテレビ、インターネットで見た、歴史的遺産を間近に見ることになります。今の時代、映像・画像技術が進み、本当に美しい写真・映像を見ることが出来ます。しかし、どれだけ映像技術が進歩したとしても、**実際に見るということは、やはり違うのではないかと思います。**例えば、法隆寺、現存するものとしては世界最古の木造建築です。伽藍（境内の建物）がほぼ完全な形で残っている雄一の古代寺院で、世界遺産に選ばれています。法隆寺の七不思議、①蜘蛛が巣をかけない②南大門前に鯛石という石がある③五重塔の相輪（屋根の上に金属製の柱の部分）に鎌が刺さっている④伏蔵（地下に埋められた蔵）がある⑤境内の蛙には片目が無い⑥夢殿の礼盤（読経する僧が座るところ）の裏が汗をかいている⑦雨だけが地面に穴をあけないの7つです。私もこの七不思議を聞いて、それを感じながら見学したのを覚えています。そのような不思議があってもおかしくないと思える雰囲気・空気感が法隆寺にはあったと思います。法隆寺の創建については、金堂の薬師如来坐像光背の銘文に、607年に聖徳太子と推古天皇が建立したとあります。ただ、『日本書紀』には670年に法隆寺

が全焼したとの記述があり、調査で焼けた寺院の遺構も発見され事実と確認されているものの、金堂については670年以前の建物の可能性も指摘され、論争が続いているようです。ともあれ、法隆寺が世界最古の木造建築であることには変わりありません。そして、何より今もお寺としてその営みを続けているというその歴史の長さには、本当に驚いてしまいます。私達をその不思議さ、神秘さに引き込むのは当然のことですね。法隆寺について、長々と書きましたが、このように修学旅行では、日本の歴史を学習します。子供により、その興味・関心の差が当然あるかもしれませんが、**日本の歴史について、日本人について、深く考える良い機会を与えてくれるものと思います。**また、友達と語り、一緒に行動する古都の秋。この二日間、子供達にとっては、忘れられない思い出となることでしょう。大人になっても決して色褪せない思い出。あの時、あそこで、こんなことをした、たわいもないこと、些細なこと、自分が初めて見たもの、聞いたこと、そして、自らが感じ、考え、思い、発見し、新たな一ページを刻むことでしょう。**6年生には、この二日間、学ぶべきことをしっかりと学び、自分の行動に責任をもち、仲間との関係をしっかりと築き上げて欲しいと願っています。**10月。いよいよ令和3年度も後半戦へ突入、折り返しの時期です。この修学旅行が、6年生にとって、後半戦を見据えた、つまり、「卒業を見据えた力強く、逞しい活動になることを願っています。

体調を崩しやすい時期、水分補給、十分な睡眠、栄養バランスの摂れた食事、適度な運動、排便、起床時刻の規則化等、**基本的な生活リズムが大切です。**また、感染症対策については、「**恐れず、正しく、適切に**」対応し、**感染症対策（朝の検温、マスクの着用【不織布マスクを推奨】、手洗い、手指の消毒、3密回避等）を徹底します。**保護者の皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症についてご心配なことがございましたら遠慮なくご相談ください。中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。